

○学習指導要領（2021 中学校完全実施）

- POINT**
- 1 社会に開かれた教育課程 社会との連携・協働による学校教育の実現
  - 2 育成を目指す資質・能力の明確化 知識技能・思考力判断力表現力等・学びに向かう力
  - 3 カリキュラム・マネジメント 教科等横断的・P D C A・社会資源の活用
  - 4 「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善

○文部科学省・生徒指導提要（2022/12 12年ぶりの改訂）

誰もが安心していただける学校 「させる」から『支える』指導 へ

○東京都教育委員会教育目標

- 新宿区教育委員会教育目標
- ・広い視野と、自らを律し互いを認め、思いやりの心をもつ人
  - ・地域の一員として、規範意識や公共の精神に基づき、社会の形成に進んで参画する人
  - ・個性や創造力が豊かで、自ら学び、考え、行動する人

○新宿区教育ビジョン  
(H30年2月公示)

- [柱1]子ども一人ひとりの「生きる力」をはぐくむ質の高い学校教育の実現  
[柱2]新宿のまちに学び、家庭や地域とともにすすめる教育の実現  
[柱3]時代の変化に対応した、子どもがいそいそ学ぶ教育環境の実現

○新宿区 [令和8年度の重点] ※            は令和7年度からの追加・変更

[柱1] ■確かな学力向上

- ①新宿区学力定着度調査の分析と活用及び個に応じた指導の充実  
学力向上のための重点プランの活用・デジタルドリルの活用
- ②新宿区版G I G Aスクール構想実現に向けた授業改善
- ③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ④A L Tを活用した英語教育の推進  
デジタル教科書を活用した英語教育の推進
- ⑤理科教育の充実

■豊かな心と健やかな体づくり

- ①障害者理解教育の推進
- ②スポーツへの関心と体力の向上  
スピードアップアカデミーを活用した体力向上の取組  
の充実

■就学前から中学校までのつながりのある教育の推進

- ①「小中連携の日」の充実
- ②連携教育の充実（学習、生活、道徳、キャリア・サポート、タブレット端末の活用等）

[柱2] ■地域との連携・協働による教育の推進 ○地域協働学校の充実

■子どもの安全の推進 ○情報活用能力（特に情報モラル・情報セキュリティ分野）の育成

[柱3] ■一人ひとりの子どもが豊かに学べる学べる教育環境の整備

- ①学校いじめ防止基本方針に基づいた組織的な対応等の充実
- ②hyper・QUの活用
- ③不登校未然防止の取組の充実（新宿区版不登校対応マニュアルの活用・校内教育センターの活用）
- ④多様な教育機会の確保、フリースクール等との連携
- ⑤夏季休業期間を活用したフォローアップの確実な実施と状況の把握
- ⑥S CおよびS S Wとの連携
- ⑦自殺予防及びネグレクトやヤングケアラー等への対応
- ⑧まなびの教室の運営と組織的な支援体制の充実（アセスメントツールの活用と在籍学級と都の綿密な情報交換）

■学校の教育力の強化 ○教員の働き方の意識改革等



## 1 新宿区立落合中学校 教育目標（平成29年度制定）

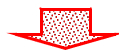
時代の変化に対応できる調和と統一のとれた人格の完成をめざし、集団生活を通して心身の健康を図り、友情を培い、生きる力をはぐくみ、地域と共に学び、社会に貢献できる人を育成する。

○自ら学ぶ ○思いやる ○やり通す

## 2 グランドデザイン

学校は、「生徒の健康と安全」を基盤とし、生徒の心身の成長を促し、生徒が自立的に将来を切り開き自己実現を図るための「生きる力」を育成する場であり、それを導き、支えることは学校としての責務である。

学校・教員としての不変の視点	令和8年度における4つの視点
<p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「徳・知・体」のバランスのとれた成長 → 自尊感情・自己肯定感</li><li>○目標の達成（理想の実現に向けた努力） → <b>主体的な取組</b> → 自己実現・達成感（<b>成就感</b>）</li><li>○充実した学校生活 → 自己有用感・社会性の向上</li></ul> <p>[教職員]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○生徒の成長・目標の達成 → 高い職業観に基づく達成感・<b>職責を果たすための向上心</b></li></ul> <p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○生徒の成長・目標の達成 → 相互理解・協働・厚い信頼感</li></ul> <p>[地域]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○支援による生徒の成長・地域への貢献 → 協働の喜び・充実感</li></ul>	<p>[視点1] 日々の教育活動の充実・精選</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○<b>教育活動の目標の明確化（継続）</b> → 目標を達成するための計画と方策</li></ul> <p>[視点2] 学習指導要領の具現化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○カリキュラムマネジメント → 教科等横断的・地域資源・P D C A</li><li>○<b>授業力の向上</b> ■<b>基礎・基本の確実な定着（継続）</b> ■<b>主体的・対話的で深い学びの実現</b> → 基礎・基本の定着を土台とした思考力・判断力・表現力等の育成</li></ul> <p>[視点3] GIGA スクール構想</p> <ul style="list-style-type: none"><li>→ I C Tの有効活用・ドリル教材活用</li></ul> <p>[視点4] 5年先の落合中の創造</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○地域に信頼される学校（協働の向上）</li><li>○<b>組織の再構築</b>と組織力の向上 [チームワークの形成]</li></ul>



グランドデザイン

『笑顔あふれる落合中学校』を創る

— 自分の意思で今の自分を越える一歩を踏み出せる 生徒の育成 —

グランドデザイン「笑顔あふれる落合中学校」は、私の理想とする学校創りの不変のテーマであり、

- 生徒 落合中学校で生活できて良かった
- 保護者 落合中学校に通わせて良かった
- 地域 落合中学校は地域の誇り
- 教職員 落合中学校に勤務ができて良かった

という理念を表現しており、令和7年度、多くの場面で、生徒の主体的な活動を導き、支援し、活性化を図ってきました。しかし、集団としての大きな成果「成長」をお互いに確認しながらも、生徒個々までには至っていない現状もあります。これまでも「主体性」に取り組んできましたが、令和8年度、「主体性の深化を個のレベルで達成する」を具現化するイメージをサブタイトルで表現しています。

- 学校教育でも知識を習得するだけではなく、その知識を生かして自分で考え、判断し、表現する力の育成が求められている → 「自分で自分を導く力」をいかに育むか
- 主体性とは…「自分の意志・判断で行動しようとする態度」  
(主体的…子どもが自らに考え何をすべきかを決め、やる気を持って取り組む状態)
- [視点] ○自己決定する機会をつくる ← そのために必要な材料（情報）の提供  
○結果を振り返らせる → 自己分析と課題解決  
○視野を広げる助言を与える → より良いものを創り出す契機
- 成功体験〈やればできる!〉 → 自己肯定感 自己有用感

### 3 令和8年度・めざす生徒像・教職員像・学校像

#### (1) 生徒像

生徒一人一人の輝く未来を実現するための生きる力

徳「豊かな心」・知「確かな学力」・体「健やかな心身」

をバランスよく有する生徒

徳「豊かな心」	知「確かな学力」	体「健やかな心身と社会性」
<ul style="list-style-type: none"><li>○自他の生命と人権を尊重できる生徒</li><li>○基本的生活習慣を身に付けた生徒 (あいさつ、言葉遣い、身だしなみ)</li><li>○善悪の判断ができ、規範意識が高い生徒</li><li>○他者への思いやりと感謝の気持ちをもてる生徒</li><li>○地域の一員という意識のある生徒</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○基礎的・基本的な知識・技能を習得している生徒</li><li>○思考力・判断力・表現力等を身に付け、統合的に活用し、社会の変化に対応できる生徒</li><li>○自分に自信をもち、目標の達成に向けて努力できる生徒</li><li>○主体的に学習に取り組む生徒</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○すべての活動の基盤として、たくましく生きるための心身を有する生徒</li><li>○自他の心身の健康と安全を考え、それを実践できる生徒</li><li>○状況や場面に応じ、他者と協働的に物事に取り組むことができ、より良い方向を目指すことができる生徒</li></ul>

#### (2) 教職員像

- 生徒一人一人を大切にし、生徒の成長に喜びを感じる教職員
- 教育への高い意欲をもち、教員としての基礎基本を身に付け、その向上に努める教員
- 主体的かつ適切な判断ができ、組織の一員として、先を見通した行動ができる教職員
- 学校の教育力向上を図るための「カリキュラム・マネジメント」を実践できる教職員
- 危機管理意識の高い教職員
- 様々な人間関係を大切にし、お互いに高め合える（OJT意識を有する）教職員
- 服務に厳正な教職員

#### (3) 学校像

生徒・保護者・地域から信頼され、地域に誇れる学校

- 【具体的な学校像】
- 安全・安心・清潔で、生徒が楽しく登校できる学校
  - 規律ある学校
  - 日々の地道な教育活動の積み重ねを重視できる学校
  - 心をつなげて組織力を生かせる学校
  - 保護者や地域と協働できる学校
  - 「地域を支える中学生」を育成できる学校

### 4 令和8年度・学校経営計画の指針

#### (1) 「豊かな心」の育成

- ①生命尊重、人権尊重の教育の充実を図る。
- ②思いやりの心と感謝の気持ちをもつ生徒を育成する。

【目標実現に向けた令和7年度の取組み】

- 柱1** 人権に関わる指導・対応 及び いじめ防止の指導の徹底
- 柱2** 思いやりの心や感謝の気持ちを育成する指導の充実
- 柱3** 道徳教育の充実 → 道徳的実践力の向上
- 柱4** 「暴力根絶」「暴力行為ゼロ」の指導の徹底

(2) 「確かな学力」の育成 —学習指導要領の具現化とGIGAスクール構想—

【学力の3要素】(学校教育法第30条2項)の実現

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- 主体的に学習に取り組む態度

学習指導要領における【育成すべき資質・能力の3つの柱】

- 何を理解しているか、何ができるか (生きて働く「知識・技能」の習得)
- 理解していること・できることをどう使うか (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)
- どのように社会・世界とかがわり、より良い人生を送るか (学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

新宿版GIGAスクール構想

子どもの「学びたい」をかなえるICT

～児童・生徒一人ひとりが他者との学び合いを通して自己に合った学び方を見付け力を伸ばすICT環境の実現～

- 【指導の重点】 ○「主体的・対話的で深い学び」を実現するICT活用
- 一人ひとりに個別最適化された学び → 区学力調査との連携、AIドリルの活用
  - 協働学習の推進
  - 家庭への持ち帰りや学校外での活用

【目標実現に向けた令和8年度の実践】

- 柱1 生徒一人一人の学力の向上 ○基礎的・基本的な知識・技能の習得  
○思考力・判断力・表現力等の育成)
- 柱2 「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善
- 柱3 学習意欲の向上と学習習慣の確立

(3) 「健やかな心身と社会性」の育成

- ①体力の向上と心の充実 [心と体のバランスの取れた育成]
- ② [実践的な行動のできる] 社会性の育成

【目標実現に向けた令和7年度の実践】

- 柱1 基礎体力の向上と部活動の充実 (中学校生活における「学ぶ」部活動・勝利至上主義ではない)
- 柱2 心と身体のバランスを重視した食育と健康教育の充実
- 柱3 社会性の向上

(4) 保護者・地域と連携した教育の充実【地域協働学校】

地域の教育力の活用を図るとともに、地域を支える中学生を育成する。

—「地域は教材」「地域は教室」「地域は先生」「地域は家族」「地域は世界への入り口」—

【目標実現に向けた令和6年度の実践】 —カリキュラム・マネジメントの実践—

- 柱1 地域の教育力の活用
- 柱2 「開かれた学校づくり」から「開かれた教育課程」へ

## 5 令和8年度の教育課程編成に向けて（ポイント・留意点）

### （1）〔平成8年～9年度にかけて〕 ➡ 教育課程の系統化と教科等横断的視点

各教育活動を単発にしない・行事をイベントにしない

- 3年間を見通した生徒の成長と教育活動の展開
- キャリア教育（進路選択を含む）
- 主体性を育む活動…生徒会・委員会活動、各行事の運営、部活動
- 教科授業における横断的学習（内容・方法・話し合い活動等の展開）  
各教科における3年間を見通した系統的指導
- 安全教育、保健教育等における系統性

### （2）教育活動の充実と働き方改革

### （3）基礎学力の充実

- 教科・単元・毎時間の「学習目標」を達成するための授業構築
- 日々の授業の充実を最優先とする。
- 朝の時間帯の活用・徹底 → 月～水：AIドリルの活用 木・金：朝読書
- 教材購入について → 適切な教材の選定（保護者の負担軽減の視点を含む）
- 各種検定 学校全体としての取組へ

### （4）不登校生徒の対応

- 登校支援委員会の充実一個々に応じた在り方を考え、連携し、日々の実践に昇華する

### （5）生徒主体での学校生活の創造

- 生徒の自主的な取組による「学校生活の充実」→ 不変と変化  
学習活動・行動規範への広がり

### （6）その他

- 5年後を見据えての年間行事の精選と準備等を含めた行事内容等の再点検
- 夏季休業期間のフォローアップ

## 6 その他（教職員に関して）

### ■新しいチーム（分掌・学年等）創り

- チームワークの形成 → チーム〔組織〕でワーク〔仕事〕を進めていく。  
一人一人の考え方を大事にしながらも、チームとしての方針を明確にし、  
考えを統合・昇華させ、『1+1=3』になるような組織にする。
- 互いの「良さ」を認め『補完』（足りないところをは「互いに補って」いく）できる組織  
→ 大人（教職員・保護者・地域）だけでなく、生徒も含め、それぞれの「良さ」「長所」を  
見つけ、大事にする。